

地球の「いきいき」のために

# 環境会計

環境会計ガイドラインに基づく環境会計、並びに当社独自指標である緑字決算を公表します。

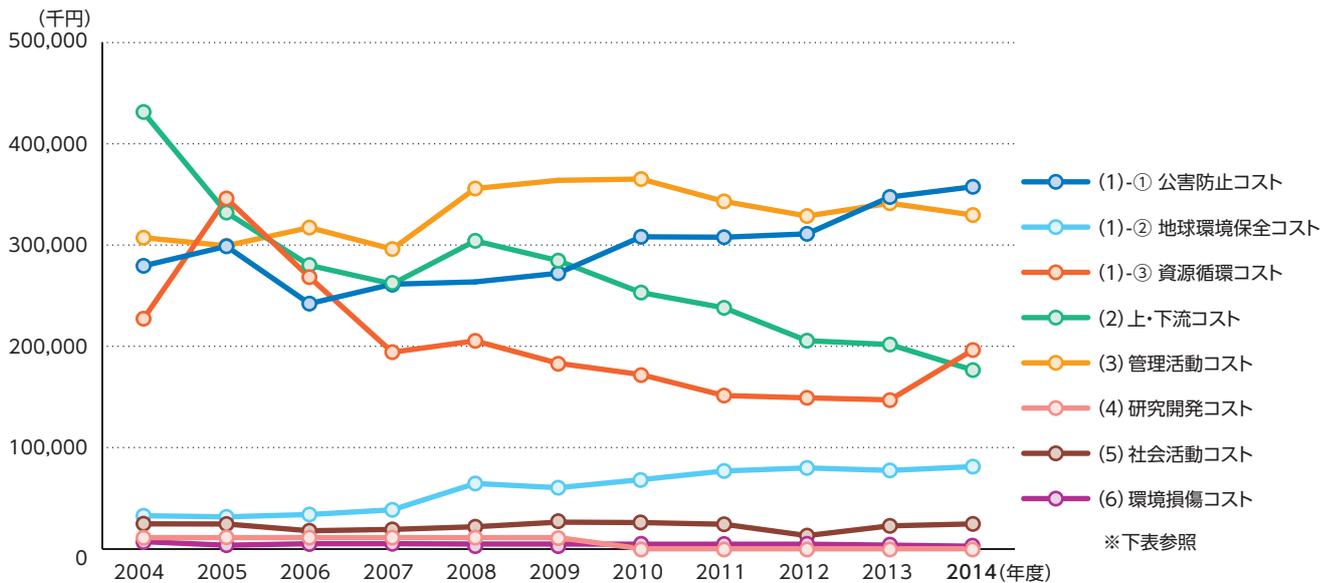
## 環境会計ガイドライン(環境省)に基づく環境会計

継続性のある「費用」について2004年度以降の推移を以下のグラフに示します。

環境会計ガイドライン(環境省)に基づく分類において、過去11年間で「公害防止コスト」と「地球環境保全コスト」が増加する一方、「上・下流コスト」と「資源循環コスト」が減少傾向にあります。「公害防止コスト」はボイラー、排水処理施設の保守点検や修理等、大気汚染や水質汚濁を防止するための費用、「地球環境保全コスト」は省エネに配慮した効率的な設備の点検・補修費用などが多くを占めています。「上・下流コスト」は販売した商品の容器のリサイクル費用が減少しています。「資源循環コスト」が2013年度まで減少傾向にあるのは、廃棄物の有効利用が進み、産業廃棄物の処理費用が減少したためです。

2014年度の環境会計は、投資額合計が197,075千円、費用額合計が1,165,668千円で、2013年度に比べて投資、費用とも増加しています。主な増加要因は、焼酎粕焼却設備の補修などによる「資源循環コスト」の増大によるものです。

### ● 過去11年間の環境会計(費用)のグラフ



### ● 2014年度環境会計(2014年4月～2015年3月)

分類	主な取り組みの内容	投資	費用
(1) 主たる事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		157,633	635,007
内訳	① 公害防止コスト	26,563	357,573
	② 地球環境保全コスト	77,967	81,133
	③ 資源循環コスト	53,103	196,301
(2) 主たる事業活動に伴ってその上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(上・下流コスト)	はかり売り用タンク購入、再商品化委託費用、リターナブルびんシステム維持など	5,822	176,490
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	環境マネジメントシステムの整備・運用、環境設備の運用など	33,640	329,624
(4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発	0	0
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)	環境教育イベント実施、環境NPO支援など	0	24,545
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)	産業廃棄物適正処理推進基金	0	2
合計		197,075	1,165,668

(集計範囲: 宝酒造単体、単位: 千円)

## 緑字決算

### 環境活動の成果を独自指標で評価

企業は、原材料やエネルギーを利用したり、廃棄物や温室効果ガスを排出するなど、地球環境と密接にかかわり合いながら事業活動を行っています。そこで、地球に対する事業活動における環境面の収支を報告する必要があると考え、導入したのが「緑字決算」です。この「緑字(りよくじ)」という言葉は、経済活動の成果を一般的に「黒字」「赤字」と表現することから、環境活動の結果を表現する言葉は何字だろう?と考えた時、環境=緑のイメージから1998年に生まれました。以来毎年、「緑字決算」として宝酒造の環境活動の取り組み結果を公表しています。

### 緑字決算の定義

原材料の調達から生産、物流、消費後に至るまでのすべてのプロセスで発生する環境負荷の中から重要な環境負荷項目を選定し、その環境負荷の改善度をECO(エコ)という1つの統合指標で表したものです。

### 緑字決算ECOの算出方法

①「緑字決算」の指標に選定した環境負荷項目はそれぞれ単位が違うので単純には比較できません。そこで、それぞれの環境負荷の基準年(2013年度)からの改善率(%)を求めることにより単位を揃えました。

②環境負荷の影響度はそれぞれ異なっているので、改善率を単純には平均出来ません。そのため環境負荷項目に重み付けを行いその「重み付け係数」を掛けて個別ECOを求めたあと、その平均をとって統合指標ECOを算出しました。なお、「重み付け係数」の決定にあたってはインターネット上で、約1,000人の方に重要度の順位付けを行っていただきその結果を係数化しました。

$$\text{個別ECO} = \text{項目ごとの改善率} \times \text{重み付け係数}$$

$$\text{緑字決算ECO} = \text{個別ECOの平均値}$$

図5: 緑字決算対象項目選定と重み付け詳細

### 2014年度の緑字決算は+0.2ECO

容器包装の減量化や省エネ、省資源活動の結果、原料、燃料、用水などの削減が進み、9項目中6項目がプラスECOとなりました。

一方で、飼料原料として販売していた焼酎粕が需要減のため産業廃棄物となり、「工場廃棄物」が大幅なマイナスECOとなりました。

その結果、2014年度の緑字決算は+0.2ECOとわずかにプラスとなりました。

### ● 2014年度 緑字決算報告(2014年4月～2015年3月)

	地球環境からの調達					地球環境への放出			
	原材料の調達		資源・エネルギーの調達			大気・水系への排出		廃棄物の排出	容器包装の排出
(単位)	原料 (t)	容器包装 (t)	燃料 (物流を含む) (kℓ・原油換算)	電力 (kwh)	用水 (千m)	CO <sub>2</sub> (物流を含む) (t-CO <sub>2</sub> )	工場排水 (千m)	工場廃棄物 (t)	リサイクル されない 容器包装 (t)
2014年度	148,942	47,381	39,739	41,146	5,501	110,985	4,138	4,465	11,885
2013年度(基準年)	152,054	49,769	40,385	41,116	5,626	113,466	4,054	3,938	12,617
①改善率(%)	2.0%	4.8%	1.6%	-0.1%	2.2%	2.2%	-2.1%	-13.4%	5.8%
②重み付け係数	0.94	1.04	1.07	1.13	0.89	1.08	1.06	1.00	0.78
個別ECO=①×②	1.9	5.0	1.7	-0.1	2.0	2.4	-2.2	-13.4	4.5

②の重み付け値はインターネットアンケート調査により決定します。  
リサイクルされない容器包装=容器包装×(1-容器包装のリサイクル率)

図6: 環境データ算出方法 図7: 過去の緑字決算結果

環境決算 ECO	+0.2
----------	------